



毛布を使った担架でけが人を運ぶ訓練

落合小学校と真庭高校合同防災訓練 もしもに備えて対応を学ぶ



起震車で地震を体験する児童



消火訓練を行う児童ら

9月27日、落合小学校の児童と真庭高校落合校地の生徒らによる地域合同防災訓練が行われました。この訓練は、南海トラフ巨大地震が発生し、岡山県北では震度5強を観測したという想定で行なわれ、落合校地の生徒約250人と落合小の児童約180人が参加。高校生が小学生の手を引きながら避難場所に誘導し、その後、小学4年生とは段ボールトイレづくり、5〜6年生とは毛布を担架にしてけが人を運ぶ訓練や人形を使った心肺蘇生法などに取り組みました。

公共施設の未来を考えるワークショップ
真庭市の公共施設の未来を考えるワークショップが10月3日は蒜山振興局で、4日は勝山文化センターで開催され、高校生を含む61人が参加しました。参加者は、真庭市の公共施設を取り巻く現状などについて学んだ後、複数のグループに分かれて、市内の公共施設について記載された地図を確認しながら、これからの公共施設のあり方や維持管理の方向性などについて、熱心に意見交換を行いました。



地図を見ながら意見を出し合う参加者



初日に行われたパネルディスカッション

地方創生実践塾in真庭 真庭の取り組みを学ぶ
持続可能な地域づくりを学ぶ「地方創生実践塾」が9月22日と23日の2日間、中和地域で開かれ、全国から約40人が参加しました。初日は「地方創生における持続可能な社会」をテーマにした講演やパネルディスカッションに参加し、2日目は中和地域の温泉宿泊施設にボイラー燃料用の薪を販売している「一般社団法人アシタカ」、自然農法でコメを作る農業生産法人「蒜山耕藝」などを視察しました。



市政に関する動きの一部を紹介します

10/4 IEA加盟各国バイオマス研究者来日

IEA（国際エネルギー機関）加盟国のバイオマス研究者が真庭市に来訪されました。国内を代表するバイオマス産業都市として真庭市が会場に選ばれたもので、会議後はバイオマス発電所など現地視察が行われました。



10/8 子育てについて学ぶ

男女共同参画の実現と、子育て支援の必要性を考える講演会が開かれました。講師の岡山県立大学佐藤和順教授が「子育てはみんなの笑顔を育てる」と題して、育児は家族や地域でのサポートが大切と話しました。



市長室から
こんにちは!

未来を担う人応援基金について

この9月市議会において、「未来を担う人応援基金」の条例と予算が可決されました。基金額は10億円という、真庭市にとって大金です。なぜ、このようなことをするのか？それは、「人こそ宝」だから。人口減少・高齢化社会の中で、真庭市が今後とも活力を持った、誇れる地域であるためには、それを担う人＝人材が不可欠であるからです。

学校教育による人材育成は当然として、農業・林業など第1次産業や商工業に従事する人、福祉現場で働く人、文化芸術家…。既に働いている人が成長しなければなりません。また、真庭市外から意欲と能力を持つ人たちに入ってきて欲しいと思います。

そんな人材をどのようにして作るか、どんな事業をするか。市役所が考えるだけでは無く、真庭市の主人公である市民の皆さんに考えていただきたいと思います。29年度の予算化を前提に、市民提案は11月初めで一応の締め切りとしますが、優れた提案はどんどん予算化し、実行していきます。

市民の皆さん、あらゆる分野で未来を担う人（人材）を作っていこうではありませんか。また、成長する意欲のある人を応援しようではありませんか。



選挙公報を手渡す原委員長とまにぞう

選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられて最初の岡山県知事選挙に合わせ、真庭市選挙管理委員会が市内の高校に立候補者の顔写真や公約が掲載された「選挙公報」を配布しました。10月13日には原委員長と真庭市キャラクターまにぞうが真庭高校久世校地を訪れ、同校地選挙管理委員会の綱島委員長と峪田副委員長へ選挙公報を手渡し、全校生徒への配布を依頼しました。高校生への配布は、県内では初めての取り組みです。

真庭高校久世校地・選挙公報配布
主権者意識を持つとう



笑いも交えて行われたパネルディスカッション

10月14日、「久世駅CLTモデル建築物（仮称）設計コンペ表彰式・CLT普及促進シンポジウム」が旧遷番尋常小学校で開催されました。真庭市がJR久世駅前に整備するCLT（直交集成板）モデル施設の設計者の表彰と概要説明、「木とまちづくり」をテーマにした講演とパネルディスカッションが行われ、訪れた約170人の市民らは、CLTを活用した木材需要拡大の可能性と方策に耳を傾けていました。

CLT普及促進シンポジウムなど
CLT需要拡大策を考える